

福祉サービス第三者評価結果

①第三者評価機関名

株式会社 地域計画連合

②事業者情報

名称：	上尾市立上尾保育所	種別：	保育所
代表者氏名：	柳川 菜穂子	定員(利用人数)：	100 名
所在地：	〒 362-0014 上尾市本町4丁目13番1号	TEL	048-771-1556

③評価実施期間

令和 6 年 5 月 30 日(契約日)～令和 7 年 3 月 14 日(評価結果確定日)

④総評

◇特に評価の高い点

○園庭での遊びの広がりを考えて、工夫したり発見につながるよう築山の改修を行うなど、子どもたちが集まり遊びを楽しむことができる環境の整備をしている

「心身ともに健やかな子」を保育の目標にして、園の保育の特徴である裸足保育、リズム遊び・うた、異年齢交流と同様に「砂・水・土（泥）」を使って遊ぶことを大切にしている。門を入ったところに従前より築山を作っていたが、長年の使用で土が劣化し、ただ固いだけの山となっていた。そのため、子どもたちにとって魅力的な築山にするにはと考え、改修を実施した。低年齢児の指導計画には、園庭遊びの際の砂、土（泥）、探索等が組み込まれ、子どもたちが築山に集まってくるようになり、裸足で感触を楽しんだり、足を踏ん張って上り下りをしたり、水を使って滑り台にして楽しんでいる。また、土を掘って砂との違いを感じたり、園庭の葉っぱと混ぜてままごとの食べ物に見立てて遊ぶ姿もある。

○安心・安全な保育環境を確保するために、日々の安全点検や危機管理訓練の実施とともに、ヒヤリハットの報告や事故分析を行い、マップにして保護者にも危険個所の周知をしている

安全保育計画の具体化に取り組み、クラス別に保育室内や散歩時の安全確認のリストの他に、施設内設備の点検、固定遊具の安全点検や指導上の注意事項などのリストを作成し、日々や月単位で点検をして環境上の安全管理ができるようにしている。毎月、火災や地震の避難訓練を実施するほか、危機管理訓練として、園内や園外での行方不明、延長時間や土曜保育中の怪我、不審者の侵入を想定した訓練を実施し、来年度は引き渡し訓練も予定している。日々のヒヤリハット案件は、気づいた職員が記入しフォーマットに入れ、毎朝の朝礼で報告がされたり、事故分析シートを活用して、担任が原因を考え主任と相談をして分析シートに記入し、対応方法を職員会議で報告をするなど職員間で共有して危機意識を高めるようにしている。保育所内の廊下に、ヒヤリハットマップや散歩先のマップを掲示して、保育所の取り組みを保護者に周知している。

○年間食育計画を作成し、野菜の栽培活動やクッキング等の食育活動を通して、食への興味と関心を広げている

園庭内に作られた菜園にサツマイモやスイカを植え、プランターでナス、キュウリ、おくらなどの夏野菜の栽培活動を行っている。夏場は毎日水やりをして、野菜の生長を楽しみにしている子どもたちの姿がある。収穫した野菜は給食で食べたり、小さなスイカも食べることができ、秋には菜園で低年齢の子どもたちが芋ほりを行っている。また、クッキングは夏場を除いて実施し、春にはヨモギ団子作りやお正月には伝統行事の餅つきを行っている。米作りにも挑戦し、栽培し収穫できた少量の米を入れ、おにぎり作りのクッキングを行ってみんなで食べるなど食を身近に感じる体験をしている。食育の実施時には、活動の様子を写真にして掲示し、玄関エントランス内で保護者に見てもらっており、好評である。

◇特にコメントを要する点

○子どもが主体的に、やりたい遊びを楽しめるための、保育室内の環境のさらなる工夫を期待したい

保育室内は、子どもたちが遊ぶ玩具類は部屋の壁側に沿って棚が配置され、ブロックやままごと遊びの食器や手づくりの食材など置かれたり、ぬいぐるみや絵本、クラスによっては、かるたや廃材が置かれ、部屋の真ん中の広い空間は、動きのある遊びや食事や睡眠のために活用できるように確保されている。所庭に築山をつくるなどの改善が子どもを遊びを広げている。今、保育所で取り組んでいる一人一人を大切にしたい保育を更に充実するために、子どもたちがやりたいことを選択できるように、保育室の玩具のある棚を一人遊びを含めじっくり遊ぶことが出来るように配置を変えたり、いつでも取れるように玩具の種類や必要な数の検討を期待したい。また、子どもたちが共同して遊べる玩具や遊びの内容の検討の際には、子どもの意見を聞くなど、子どもの主体性を尊重した検討も期待したい。

○保育所への思いを具現化し、分かりやすく見せ、子どもを中心とする事業計画を期待したい

保育所が考える事業計画としての視点を整え、施設全体において対象とする年度内で実施すべき取り組みを取りまとめ、計画と報告を一对とする目標と達成状況が分かりやすいものとして編成することを検討されたい。所長および主任、全職員が考えている保育所への思いを具現化し、取り組んでいく方針を実践につなげる対応を分かりやすく見せる化につなげる内容を検討して、職員で共有・実施するための子どもを中心とする事業計画の策定を期待したい。

○保育所職員の目指すキャリアパスを取りまとめ、個別の人材育成計画を確立されたい

職員が将来において目指すべき姿となる保育所職員の標準的な指標としてのキャリアパス的な指標が提示されており、全職員に共有されている。これまでの経験や特技、培ってきた技能・育んできた知識などを踏まえ、将来的に職員自身が叶えたいとする姿（要望）と施設が求める職員像（推奨）を合わせて話し合い、職員が目指す育成の方向を盛り込み、さらなる一人ひとりの希望に合わせた育成計画の検討も進められたい。目標とする・目指すべき方向性が明らかにされることで、職員のやる気・働きがいのさらなる向上に活かされる標準的な指標として寄与することも期待される。

⑤第三者評価結果に対する事業者のコメント

今回の第三者評価を受けることで、様々な方面からのご意見をいただき、学びが深まりました。良かったと評価された野菜の栽培活動、食育活動、園庭の築山を含めた子どもの遊びを保障するための環境作りなどは子どもの主体的な遊びをより大切にし、今後も取り組んでいきたいと思えます。また、安全計画、事業継続計画については児童福祉施設の設備及び運営に関する基準に基づき今後も対応してまいります。課題としてあげられた点について職員と話し合いながら改善できるところから取り組み、より良い保育を目指していききたいと思えます。

⑥各評価項目にかかる第三者評価結果

別紙「評価細目の第三者評価結果」のとおり